

■基本情報				
取組・プロジェクト名称		日本経済の復活 その基本に ・ 『温故知新の実行』		
応募者	メンバー氏名	所属機関	役職	年齢
	◎ 森松 義喬	(株) 国際マイクロ写真工業社	会長	59
		(株) 国際マイクロ写真工業社	生産部・営業部の有志 等	
会長		日本大学経済学部 ・ 大原学園 (情報処理) 等		
問合せ 連絡先	氏名	森松 義喬 (もりまつ よしたか)		
	所属機関	(株) 国際マイクロ写真工業社		
	電話番号	090-3104-2565		
	E-Mail	<a href="mailto:kmsymym1962@icloud.com">kmsymym1962@icloud.com</a> <a href="mailto:h@kmsym.com">h@kmsym.com</a>		
	住所	〒162-0833 東京都新宿区筆筒町 4-3 (本社)		
応募区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自薦			
■中心的役割を担う組織				
<input checked="" type="checkbox"/> 産業界 (小企業) <input checked="" type="checkbox"/> 公的研究機関 <input checked="" type="checkbox"/> 大学・教育機関 <input checked="" type="checkbox"/> その他 各県知事方々、各学会、非営利団体 等、 また 47 都道府県の 高齢者・専業主婦・障がい者・若年無業者 [ニート] 等 潜在的労働者 及びそれらの団体等				
■取組が関連する分野 (二つまで選択可)				
<input checked="" type="checkbox"/> 情報工学 <input checked="" type="checkbox"/> 環境				
■希望する受賞名 第一希望 : ( ④ ) 第二希望 : ( ⑪ )				
① 科学技術政策担当大臣賞   ② 総務大臣賞   ③ 文部科学大臣賞   ④ 厚生労働大臣賞 ⑥ 経済産業大臣賞   ⑧ 環境大臣賞   ⑩ 日本経済団体連合会会長賞   ⑪ 日本学会会議会長賞				
■本取組・プロジェクトに係る受賞歴				
★ 経済産業大臣様 「情報化促進貢献個人等表彰」 . . . . . 2021 年 令和 3 年 10 月 ★ 新宿区長様 ・ 東京商工会議所新宿支部会長様 「新宿活き活き経営賞」 . . . 2010 年 平成 22 年 2 月  上記 2 点を含め (株) 国際マイクロ写真工業社 (以下 国際マイクロ) の 「マスコミ評価」 は下記 記 <a href="https://kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5">https://kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5</a>				

## ■組織・プロジェクトの概要 (赤文字以外 800 字以内)

### ●取組全体

●「日本経済の復活」の基本に 全国の古文書を後世に引き継ぐ『温故知新の実行』。

そのためには 産・官・学・民 の協力が必要

「産」の技術力等と経験の 公開 と 教育 ・「官」の予算 ・「学」の協力 ・「民」の底力

●日本が今後、不景気に 落ち込もうとも・落ち込ま無くとも、又あらゆる戦争に 巻き込まれても  
・巻き込まれ無くとも、 例え 内需拡大等 大借金をしてでも『温故知新の実行』の時。

急いで智の集積である古文書、その デジタル化・分散管理 を日本各地で日本人の皆で協力して  
実行してゆかなければなりません。

●そう出来得る人材が日本に「沢山居る」「能力を発揮出来る」と 実際に国立国会図書館 大量電子化  
の国家プロジェクトの仕事で「当社のやり方次第、不可能では無い」と国際マイクロは経験・確証済。

●【47 都道府県の高齢者・専業主婦・障がい者・若年無業者 [ニート] 等 (潜在的労働力 → 顕在化)  
が 全国にある古文書のデジカメ撮影等を行う。日本人・政府が古文書の大切さを理解し、新規の  
国家予算を組み、全国各県の「産」が「民」を育てる仕組みを新たに創ってでも 進めよう】

●日本中に残る 古文書 の多くが 天災人災で無くなる・経年劣化の儘・又はホッタラカシの状態

### ●【記録の大切さ】

国内神社等 約 1000 カ所の記録を調査・保存・活用等、研究を行う歴史学 元大学教授が下記映像でも  
言われておられる通り 「今在る記録を後世にしっかり繋いでゆく」 事が「国の未来を造る」

<https://www.youtube.com/watch?v=r3mpCeFDOBA> 重要 15 分 48 秒

### ●連携の内容

①各地域の古文書の選定 (連合戸長役場が出来る明治 18 年 以前の記録)

②各地域のプロ・業者の選定

③各地域の拠点・作業場所 等の選定 が必要

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・情報保存研究会・日本文書情報マネジメント協会 等の有志で

① と ② 等は機能が可能 ③ は各県知事方々等と話し合っ決定

### ●目的

産・官・学・民 の協力・少しの妥協で『温故知新の実行』、日本経済復活の基本となる

(対応可能な会社が日本には今 一社在る)

### ●客観的な効果等

計れない程 大

【連携の目的】 社会的ニーズへの貢献について （赤文字以外 800 字以内）

社会的ニーズや課題の解決等への貢献、将来の社会や産業の在り方に革新を起こす可能性（新型コロナウイルス感染症対策やポストコロナの社会変革など）をご記入ください。

●「古文書を 日本国内の潜在的労働力を育て デジカメ撮影を行う」

という行為自体が 識字率世界最高峰の日本 各地域の「過去情報」を「後世に引き継ぐ」事に繋がる。

●各地域の過去情報のデジタル保存・活用は **社会的ニーズ・課題解決、将来の社会や産業の在り方に革新を起こす**、近未来 現代語翻訳で各地域の未来に非常に大きく貢献する「大元の情報」と成る。

●デジタル化を行う前に、各地域の古文書を「無くす・または廃棄」されたら「おしまい」です。

◆【デジタルカメラも含め なるべく国産品を使用】

◆【『温故知新の実行』の現場の動向を 6 か国語で web 配信、日本国内のみでは無く世界の少子高齢化に悩む人々もその成り行きを注目。その成功（失敗も含め）を多くの人が参考とする】

#### ・ **ポストコロナの社会変革**

撮影業務に慣れた全国のデジカメ撮影者は 自宅で「古文書のデジタル化」等を行う事も可能。

◆メール送受信 you tube 使用の教育、それらの合格 ◆事務テーブル 6 台（3×2）のスペース

◆第三者による設備設置と古文書の授受 が必要

#### ・ **社会課題やニーズ対応のインパクト・影響の大きさ**

資本主義・民主主義から 少しだけ離れた本プロジェクトのインパクト・影響は大

#### ・ **SDGs の課題設定**

11/17 が国際マイクロの目標

<https://www.kmsym.com/bunken/sdgs/sdgs.html>

#### ・ **政府の掲げる社会課題への対応**

【地方の創生 の実行】

【一億総活躍社会 の実行】

【クールジャパン戦略 の実行】

【少子高齢化対策 の実行】

（47 都道府県の 高齢者・専業主婦・障がい者・若年無業者 [ニート] 等の新規雇用 の実行）

【各地域の古文書のデジタル化 の実行： その OCR 変換・現代語翻訳 の基本を実行】

【観光立国 の実行： 例「道の駅」（国内 1000 カ所以上）等で新郷土資料ブースの作成】等

【地域の過去の調査： 天災・人災 等の記録の再確認 傾向と対策】

【地域ブランドづくり の実行】

【適地適作（お土産販売等の開拓・NET 販売等の見直し）の実行】 等が可能

#### ・ **将来の社会や産業の在り方への革新的インパクト・影響の大きさなど**

各県プロの撮影責任者を国際マイクロ等で選択・再教育。産業の在り方は革新的であり 影響力は大。

【連携の内容】先導性・独創性について（赤文字以外 800 字以内）

イノベーションを創出するための連携の体制づくり、拠点の構築、プロジェクトの進捗や知財のマネジメント、参画機関・参画者のコミュニケーション等における先導性や独創性をご記入ください。

#### 「連携の体制づくり」

は国家予算（6年で251億円）

<https://www.kmsym.com/bunken/ikurade.pdf>

が実れば 国際マイクロ等が知らない会社・団体も手をあげ、その吟味も「官」又は「県」と各地域の撮影責任者と共に忖度無くやってゆく所存。

●もうすでに国際マイクロ森松義喬の人脈なりに「実行できる段取り」は出来ております。

35年間以上 日本中の歴史学者等の媒体変換をサポート、また創業60年に及ぶ人脈等を中心に、

「古文書を後世に」と本気でアクションしてくれる方々が「取り組む準備を整えてくれる」と捉えております。

#### 「拠点の構築」

各県知事方々と各県の撮影責任者と話し合い、各拠点をポストコロナ等を視点に入れて逐次決定。

#### 「プロジェクトの進捗」

・各地域で撮影処理した画像の確認等を Google 等の検索対象から外した「/robots.txt」内で行う。  
km-i-view（2022年5月から無償配布）等も含めて進捗管理を行う。

<https://www.kmsym.com/kmview/top.htm>

・政府の新規予算化と成れば、国際マイクロは画像加工用アプリケーションソフト等を全国に配信、無償提供を実行し、各県の撮影責任者等に教育。

#### 「知財のマネジメント」

は各県知事等が、各古文書の内容を「公とする事を固く禁じる」ように作業者全員と契約。

#### 「参画機関」：「参画者のコミュニケーション等」

上記のとおり：指定された SNS 等で対応

#### ・従前にはないプレーヤーの巻き込み

全国の「潜在的労働力」を誰がどう審査するか？ 国際マイクロの実務経験者だけでは審査員は不足。各県の撮影責任者等に国際マイクロより指示を行う。（ある程度 任せる方向で進める）

#### ・互いの良いところを組み合わせ弱いところを補完する体制づくり

全国の「潜在的労働者」から働ける人員を教育し選別して活かす。後 メール・You tube で教育。

国際マイクロだからこそ出来得る本プロジェクト、国立国会図書館 大量電子化を一社で行う [経験](#)・技術力等を持つ世界で唯一無二の会社。

<https://kmsym.com/top/koltukai.html>

#### ・適時適切なプロジェクトの進捗管理

指定された SNS 等で管理。メールの送受信・you tube 参照を行える人に教育し、人選。

#### ・早めかつ包括的な知財戦略

上記のとおり

#### ・参加機関や参加者のモチベーションを維持向上するコミュニケーション手法の導入など

上記のとおり

【連携の効果】客観的な効果と持続可能性について（赤字以外 800 字以内）

連携の取組の効果が上がっているか、効果が上がる見込みがあるか、連携の実施において公的資金に過度に依存していないか、などをご記入ください。

連携の取組み 効果の見込み

については『温故知新の実行』の予算化が実現すれば、その一部の WEB 公開により「日本だけ」では無く、少子高齢化に苦しむ「世界各国の人々」が注目。ゆえに各現場は事実を記録（画像含む）して報告。

公的資金に過度に依存

します。しかし費用に対する「効果は計り知れない程 大」。国又は県が予算を持ち『温故知新の実行』。

●森松義喬は 資本主義・民主主義のもと 35 年以上働き「先ずは予算ありき」という風潮を非常に多く経験。日本の新規国家予算の設定は「世界をより豊にする目的」にゆくゆく繋がる、と確信。

●そして本プロジェクトに関わる全ての人々が「儲け過ぎ無い 損し無い」事、「情報開示」が基本。

持続的かつ自立的な連携

国内の「潜在的労働力」の「顕在化」、それを継続し続けるには「教育・伝授の仕組み」が必要。

その仕組みをつくり守ってゆく。潜在的労働者 各自への事前の教育・同意が必要。

<https://kmsym.com/bunken/201901kms.pdf>（6 年間の各成果により 7 年目以降の予定にも対応予定）

数値指標の例：取組プロジェクトにおける売上、利益、雇用創出、参加者数、賛同者数、資金調達額、予算規模、取組プロジェクトで実現する効率性、生産性の向上を示す数値、その他

取組において設定した KPI 等

【実際に】動き、月日が経たねば計測出来ない程 大。（様々な阻害要因を法的にもクリアにする）

●予算規模である 6 年間 251 億円の内訳は

事前の 1 年間は 1 億円のみ。埼玉・千葉・神奈川等、東京の近辺の 1 県で 1 億円の予算内でどこまで出来るか？ の実証実験。（そこから更に判明する「短所」等を国際マイクロ等が可能な限り補正）

5 年間 47 都道府県の各県に年間 1 億円×5 年。残 15 億円は誤差等を含めた管理費と見ております。

・連携の効果や持続可能性を示す定量的な数値 動き、月日が経たねば計測出来ない程 大。

・プロジェクトの効果と持続可能性を示す定性的な事項 動き、月日が経たねば計測出来ない程 大。

効果等を示す数値指標

効果等を示す数値指標 動き、月日が経たねば計測出来ない程 大。

●世界中の多くの国々が「少子高齢化」に怯える。「日本」において国際マイクロのデジタル化技術等の「公開準備」は「会社の存亡など関係の無い次元」と捉えての事。

●しかし本プロジェクト実行による当社を含む「プロの倒産」を望んではおりません。

●「資本主義・民主主義ゆえ」「出来得る実力を持つ会社」は国際マイクロ以外に無し。

●国際マイクロ過半数の株主 森松義喬は 2020 年脳溢血なりにも会話やメールは可、東大理Ⅱ 年 義喬の息子 千喜はアメフト日本一を目指す、しかし小さき頃から私の

想いを良く知り、やがて国際マイクロの責任者となり「社会貢献をしたい」との方針。

●私以外でも「記録を後世に残す事」を「本気で言動する人」が多い中、また「記録を記した人々」が「救われる」ラストチャンス、実行しなければなりません。

●「記録の保存・活用」は やがて世界中が味方。「出来得る立場の人が行う」のみ。

●「智の継承・デジタル化」「やっつけて良かった」と日本中・世界中が必ず成ります。